

演出から一言、ずっと同じ話しかしてないのでメモ

真似ぶの話。

他人を見ることは大事である。そう言われれば、その通り、って返事がすぐ返ってきそう。でも、他人見るのは、何の為に？

他人を見るのは、真似をする為に必要なことだからだ。学ぶ、という言葉は、真似ぶ、から発展した言葉だ。私達が喋ることが出来るのも、親などが喋るのを真似たことから始まっている。何でもそう。学ぶとは、真似ること。ソレを吸収して、自分のものにする。

私はオリジナリティを大事にしたいから、真似なんかしない！ そんな意見もあろう。ピカソは若い時から、他の画家の絵を真似ない周囲の画家たちを批判していた。真似ることのでられる叡智を、とても大事にしていた。他人から学ばない自分の殻に閉じ籠もっている人を馬鹿にしていた話は有名な話である。そんなピカソの絵が、ああなのですよ。オリジナリティ、ないですか？ 真似ることがオリジナリティを邪魔しない一例。

自分が成長しようとする時に、変化を求める時に、一番それを邪魔するのは、いつだって自分だ。自分の性質、自分の習慣、自分の癖、自分の考え方。それを打破する最良の方法が、他人から学ぶことである。他人とは、良い教材なのだ。真似を出来ない人間は、成長が遅い。真似ぶ人と比べて、少しずつ差が開いて行く。気が付いた時には、追いつけない程の差が。

特に問題にぶち当たった時かな、まずは他人から学ぶ＝真似ぶべきだ。解決の糸口は、自分の中じゃない、外にある。

長堀博士、記